

私は長崎市の生まれです。中高は札幌で過ごしましたが、大学を再び長崎で過ごした後、札幌にある現在の職場に就職しました。私が社会人となった平成2年は200海里規制直後で漁獲量がピークを迎えるころでした。かつて「アジ、サバ、イワシは海のゴミ(獲っても減らない)」と言われたのは昔のことです。そんな私の仕事も始めは公共事業による水産環境への影響を評価するための調査業務が主でしたが、平成10年以降は、磯焼け対策をはじめ水産資源を増やすための業務を多く手掛けるようになりました。技術士試験として水産部門水産土木を選択したのもこのような経緯からです。平成18年に初めて筆記試験を受け、それから4回目にしてやっと合格しました。振り返れば、最初の2年間は必要な専門知識を勉強し、後半の2年間は「技術士とは何か」を問い続けた期間だったと思います。その間多くの方に指導を頂くと共に、目指す技術士像を自分の中で形成できたと思います。筆記試験に合格し初めて臨んだ口頭試験では、控室での待ち時間に手の平から出る汗が一向に止まらなかったことを今でも覚えています。

平成23年の東日本大震災以降は磯根漁業(ウニ、アワビ)を支える藻場の再生に取り組んでいますが、多くの地域では養殖施設、漁港、住宅などが復旧しておらず、水の底までは手が回りません。また、生産力は整ったとしても、国際化が進む市場の中で競争力を持たなければ業(なりわい)として続けることはできません。今後は付加価値が高く、輸入品に負けない水産物を提供する地域づくりに役立つ技術者でありたいと思います。

峰 寛明 (みね ひろあき)

●水産部門(水産土木)
総合技術監理部門

勤務先

株式会社エコニクス
環境企画部 復興推進チーム



→次号は、金田友紀さん(水産部門)

私は1975年(昭和50年)3月に上湧別町(現湧別町)に生まれ、小・中・高と地元で暮らしたのち、大学時代を室蘭で過ごしました。その後中央コンサルタンツ株式会社に入社し、現在に至っております。今年で入社16年になりますが、その間ずっと札幌勤務ですので、生粋の道産子です。

技術士は平成17年度に道路で取得でき、以降、総監や都市及び地方計画を取得しております。

業務は主に、道路計画や設計、経済調査等を中心に行っておりますが、私は昔から道路地図を眺めるのが好きで、小学校の頃には友人と地図帳片手に「地図当て」をやっていたことをよく思い出します。その地図に残る仕事をしていると思うと、この仕事が天職だったのかなと感じております。

業務の関係で、各地の生産者や医療関係者と話をする機会がよくありますが、広域分散型地域構造を有する北海道では、物流面や医療面など、高規格道路の果たす役割は非常に大きいと感じます。特に医療面では、搬送時間の短縮が救命率向上に寄与するだけでなく、「医療機関が近くにある」「医療機関と道路で繋がっている」という安心感が地方部の人口流出の抑制、ひいては地域産業の維持にも繋がると考えられます。

道路分野では、高規格幹線道路網のミッシングリンク整備の他、防災・減災や地球温暖化対策、維持管理など重要課題が山積しておりますが、時代の要請に柔軟に対応できる技術者となれるよう、日々、技術力向上に努めるとともに、これからも建設コンサルタントという職業を通じ、地域貢献に寄与していきたいと思っております。今後とも、よろしくお願ひします。

高平 薫 (たかひら かおる)

●建設部門(道路、都市及び地方計画)
総合技術監理部門

勤務先

中央コンサルタンツ株式会社
札幌支店 設計部



→次号は、近藤桂二さん(建設部門)